

大井九条の会 平和の集い

平和への思いを語る会

日時：2021年 **5月15日(土)**
14:00～16:00

場所：大井町生涯学習センター 2階
(大井町役場となり)第1～3会議室
(大井町が同会議室閉鎖を決定した場合は中止)

※会議室閉鎖の確認は生涯学習センター(0465-83-5409)
へお問い合わせください。また大井九条の会のホーム
ページ <https://kanagawa-ooi-9jo.com>でもお知らせします。

参加費：500円 (高校生以下無料)
申込制 定員 46名 (申込みは下記の二上まで)
(申込先着順で定員なり次第締切)

※新型コロナウイルス感染防止のため体温が37.5度以上の方は参加できませんのでご了承がいます。またマスク着用厳守。密にならないよう対策しますのでご協力お願いします。

プログラム

- I 朗読紙芝居
「戦争とけん一」原作 宇田川聖一、脚色 田村嘉浩
(1985年 神奈川県図書館奨励賞を受賞)
- II 参加の皆さんからの発言：平和への思いを語る

宇田川聖一さんのプロフィール

東京生まれ、大井町在住 86才。「二十四の瞳」を観て教育が天職と考え教師を目指す。1960年、山北町清水小をはじめとして、大部分を大井町の小中学校の教諭、校長を歴任、定年後は大井幼稚園の園長等を務めた。相和小教諭時代から始めた絵画では、草花絵、郷土民話紙芝居など有名。

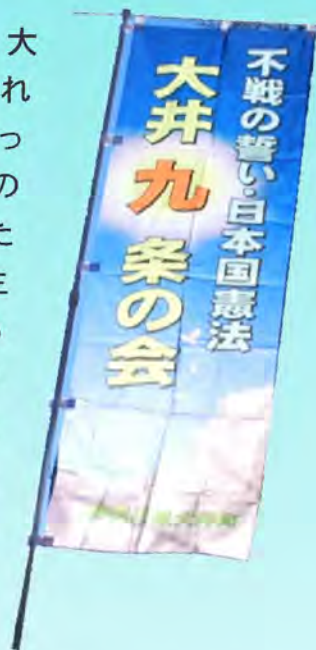
申込み・問合せ TEL：0465-83-2358 二上 (大井九条の会事務局)

国民の命と暮らしを守るために、憲法をいかす政治の実現を！

朗読紙芝居を通して、改めて戦争について考える

大井九条の会は、2014年11月、安倍政権による集団的自衛権行使容認の閣議決定に危機感を抱いた有志によって結成され、憲法を守るための活動を6年間続けてきました。結成7年目を迎えた今年は、「平和への思いを語る会」として、朗読紙芝居『戦争とけん一』を上演することになりました。

朗読紙芝居『戦争とけん一』の原作は、大井町在住の元教師宇田川聖一先生が書かれた紙芝居で、先生が向田小学校の教師だった時に、戦争を知らない親向けに、戦争の実像を知って欲しいという思いで作られたものです。東京大空襲や戦争直後の飢餓生活を実際に体験された先生や友人の話がもとになっています。主人公の健一(けん一)は、東京大空襲で親を失って戦争孤児となり、戦後の混乱の中で国家の保護を受けられずに浮浪児となった多くの子どもたちの中の一人です。戦前に似た雰囲気が強まりつつある今日、健一たち浮浪児たちの姿を通して、戦争のもたらす悲惨さや、東京大空襲や広島・長崎への原爆投下に至る戦争がなぜ起こったのかを、改めて考えたいと思います。



強権的で無為無策の菅政権にはもう任せられない

昨年9月、菅政権が発足してから7か月が経過しました。戦後最悪の安倍政権が終わり、少しはましな政治がと期待されましたが、日本学術会議への人事介入や新型コロナ対策の遅れなど、前政権以上に強権的で無為無策ぶりを露呈しました。また、東北新社やNTTによ

る総務省幹部への接待問題、農水省ぐるみの贈収賄事件などの政治腐敗が続き、政権や政治に対する信頼が失われています。

新型コロナの数波に及ぶ感染拡大や気候変動問題、米中の対立や周辺諸国との外交問題など、喫緊の課題が山積しています。果たして菅首相や自公政権のままで国民の安全や生活が守れるのかと暗澹たる思いに駆られます。また、菅首相が今国会で成立をねらうデジタル関連法案は、デジタル化によるサービス等の利便性の向上を目的とする一方で、国民の様々な個人情報を政府が一元管理することになります。政府による国民監視や企業によるデータの利活用が可能になり、憲法13条のプライバシー権の侵害や個人情報の漏えい・不正利用の危険性が高まるなど問題が多く、十分な審議が必要です。

戦争する国づくりを止め、憲法を守り、いかす政治の実現を目指す

菅首相は通常国会の施政方針演説で改憲議論を改めて表明し、自衛隊を九条に明記する改憲を目指しています。今年度予算では、北朝鮮や中国に対する脅威を口実に、軍事費が7年連続で5兆円を超え過去最高を更新しました。「専守防衛」という名のもとで、ミサイル防衛体制の強化や憲法違反の敵基地攻撃能力の開発・保持、自衛隊と米軍の軍事活動の一体化などが、国会での十分な議論がなされないままに進み、戦争のできる国づくりが進んでいます。安保法制によって集団的自衛権の行使が認められた現在、アメリカが海外で戦争をはじめたら、自衛隊と一緒に戦争をすることになります。大井九条の会は、こうした危険な動きを止め、国民の命と暮らしを守るために、憲法を守り、いかす政治の実現を目指した活動を今後も進めていきたいと思